

2024年4月吉日

BIPROGY 研究会
東北支部会員 各位

BIPROGY 研究会
東北支部

2024年度『東北支部研究活動』

メンバー募集のご案内

拝啓 日頃より BIPROGY 研究会活動にご協力、ご支援をいただき厚くお礼申し上げます。

BIPROGY 研究会では会員の皆様が日常業務の中で抱えている課題や社会課題等を研究テーマとし、テーマに関する知見を取得するのみに留まらず課題を克服すべく仮説を立て検証し、研究活動成果を報告書として取り纏め発表していただく、研究活動を行っています。

ビジネスヒントの発掘や企業の枠を超えた人材育成、異業種交流の場などの目的としてご活用ください。活動を通じて自社へ活動成果を持ち帰っていただけるよう、研究グループ毎に BIPROGY グループ社員によるアドバイザー制度を設け、運営メンバー、事務局もフォローさせていただきます。

多数のご参加をお待ち申し上げます。

敬具

【2024 年度研究活動の目的】

- ・異業種交流（社外の年齢や経験、役職の枠を超えたメンバーとの交流）
- ・人材育成（課題解決、仮説検証、チームビルディング、プロジェクトマネジメント、ファシリテーション、ドキュメンテーション、プレゼンテーション、コミュニケーション能力の向上）
- ・業務外分野探求への挑戦（失敗を恐れずチャレンジできるプロジェクト）
- ・働き方改革による新しい活動形態への挑戦
- ・活動成果の社外への発信（発表会や Web 掲載を通して参加者・参加会社の知名度アップ）

「東北支部研究活動」メンバー募集・運営要項

1. 参加資格

BIPROGY 研究会会員企業（会員企業の方であればどなたでも参加いただけます）
主体的に取り組む意欲のある方を募集いたします。

2. 研究テーマ

活動開始後にメンバー間で研究したいテーマを協議の上、決定いただきます。
テーマ案は「2024 年度研究活動 東北支部活動テーマ案」をご参照ください。

3. 参加費

- 今年度研究活動費として、1 企業¥20,000 を申し受けます。
*参加人数にかかわらず 1 企業あたり¥20,000 です。
*参加メンバー確定後、「連絡責任者」へ参加費用をご請求させていただきます。
- その他、活動のための移動交通費・旅費等は、参加者の負担とさせていただきます。

4. グループの構成

- 原則 5~7 名程度で 1 グループを構成しますが、お申込み状況によって判断いたします。
- 構成メンバーの中から、「リーダー」「サブリーダー」を互選することとします。
- 活動には、BIPROGY グループより選出されたアドバイザーが参加し、研究活動を支援します。

5. 年間スケジュール

開催予定日	開催内容
5 月 29 日 (水)	発足式&第 1 回会合予定 (対面)
8 月下旬~9 月上旬頃	サマースクール (中間報告): リーダー、サブリーダー対象
1 月末 予定	活動報告書提出
2 月上旬~中旬 予定	東北支部発表会
3 月 7 日 (金)	全国発表会

6. 活動期間と会合回数

- 活動期間は本年 5 月から翌年 2 月末までとします。(※全国発表会を除く)
- 期間中、原則月 1~2 回の会合 (半日) を持ちますが、詳細は別途グループ運営の中で決定します。
*参加者の方へ
業務に支障をきたす活動は本来の活動の形ではありません。各メンバーの進行状況を考慮の上、無理のない計画で活動を進めてください。
*参加者の会社の方へ
参加者が活動しやすいよう、社内調整やバックアップにご協力いただきますようお願いいたします。
- テーマ選定にあたっては、テーマに関しての知見取得に時間を費やし、ストーリーを組み立てられなくなるようなグループ内で工夫していただき、アドバイザーの助言を得ながら進めてください。

■発足式および第1回会合:

・日時:2024年5月29日(水)の15:00~17:30を予定しております。

・会場: BIPROGY株式会社 東北支店

※参加状況により、各メンバーのスケジュールを調整ご連絡いたします。

また、終了後に懇親会を予定しております。

■サマースクール:

各グループリーダー、サブリーダーを対象に8月下旬から9月上旬にグループの中間報告をしていただくサマースクールを開催予定です。

■活動報告書提出:

来年1月下旬に活動成果を「研究活動報告書」として提出していただきます。

*研究活動運営委員の皆様により、活動報告書の表現力・構成力はもとより、実用性・有効性、先進性・独創性・独自性などの面を考慮して査読審査をさせていただきます。

■発表会:

来年3月7日(金)に「研究活動成果発表会」として、グループメンバー以外の方々に向けて発表をしていただきます。

7. 活動運営について

■研究活動の企画・運営は参加メンバーの自主運営とします。

■会合方法はWebまたは対面のどちらでもお選びいただけます。状況によりグループ内でご判断ください。

対面会議の場合は、BIPROGY(株)東北支店及び参加メンバーの会社施設等を利用します。

■研究成果は、「研究活動発表会」や「全国カンファレンス」等で発表していただくことがあります。

■特に優れた成果には、「エッカート賞」やその他入賞制度の受賞候補として推薦されます。

■ご報告いただいた研究活動成果(研究活動報告書、プレゼン資料その他発表資料を含む)の著作権は著作者に帰属するものとします。但し著作者は、BIPROGY研究会が情報発信する機関誌やWebサイトにおいて、著作者の研究活動成果の掲載・配布に関する権利(個人名・会社名・所属先の公開を含む)をBIPROGY研究会に無償で許諾するものとします。

8. 申込方法:5月22日(火)までに以下サイトにてお申込みください。

<https://form.biprogy.com/public/seminar/view/31268>

9. お問い合わせ先

BIPROGY研究会東北支部事務局 清水・稲生

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25 JRE 東二番丁スクエア

E-mail: tohoku-box@biprogy.com TEL:022-706-2503



以上

2024年度 東北支部研究活動 募集テーマ案（ご参考）

No	キーワード	募集対象組織	キーワード選定理由
1	生成AI	全組織対象 (経営戦略・IT推進部門)	様々な業務やサービスへ当たり前の様に利用されてきている生成AIですが、コストや精度、セキュリティ、ガバナンス、倫理などの課題も同時に検討する必要がある、活用方法はまだ各社手探り状況にあると考えます。導入・適用面での課題になるポイントをトレンドを追いながら整理していく段階になってきている。また『Generative AI』の業務への有効活用を探り、生成AIでは、何が出来て何が得意なのか？有効利用できるのか？を研究する。 あるいは、少し将来を見据え、『AGI（汎用人工知能）』の可能性を探るのもいいかもしれない。
2	SaaS	DX、IT推進部門	業務要件を整理して設計する従来型の開発方法から、SaaSが提供する業務サービスに合わせて設計を行う時代が変わってきています。設計をどのように進め、利用部門を如何に業務サービスに適応させるかに知恵を絞る時代になってきました。事例やツール（機能面）等から方法論や必要スキルを整理・議論する事が必要になってきている。
3	多様性	全組織対象	自分とは異なる視点や価値観を受容し理解することが（相互に理解し、お互いが持っている特性を活かせる形を探し、貢献し合い、認め合いリスペクトし合う）、多様な人材が成果を出す企業へと成長していくものと考えます。 人と人とのコミュニケーションの価値を見つけ、企業内のコミュニケーションを改善する方法を考えてみる。
4	IT人材不足	全組織対象 (経営戦略、IT推進、人事部門)	経済産業省によるIT人材数の推計では将来大幅にIT人材が不足すると予測され、IT人材の高齢化や、ITニーズの増加に伴う需給ギャップの拡大も大きな懸念材料になっています。既に発生しつつあるこの課題に対し、どのように取り組んでいくべきか？を仮説・検証する事は、実用的な研究内容になると考えます。
5	サイバーレジリエンス	IT推進部門	サイバー攻撃などの悪条件や攻撃、侵害を予測し、それらに耐え、そこから回復・適応する能力（サイバーレジリエンス）がより強く求められてきています（ex.2023年10月10日 某社ネットワーク障害時の広範囲な影響等）。従来の障害対策やセキュリティ対策を超えた回復力をもつテクノロジーや更なる耐障害性の研究が、社会インフラ化しているシステムに必要な検討項目となってきています。
6	グリーンテック	全組織対象	「GX実現に向けた基本方針」、「GXリーグ基本構想」を経て2023年5月に成立した「GX推進法」に基づき、グリーンテックには多くの投資家が注目する期待値の高いビジネス領域です。「スマートエネルギー」や「低炭素輸送」などのサービスが出てきている中、集まったメンバー（異業種）にてITを使いどのようなサービスが考えられるかを検討する事（仮説検証）は、これからの時代に求められるスキルセットの習熟になる。
7	ITとOTの融合	DX、IT推進部門、現場部門	ITとOTの融合は、産業のデジタルトランスフォーメーション（DX）を実現するための重要な要素であり、経営と現場のコミュニケーションやデータ活用が改善され、より柔軟で戦略的なモノづくりが実現できると考えられています。ITとOTとの違い（文化、用語、セキュリティの考え方、アーキテクチャ等）や、ITとOTの融合によって生み出される新たなビジネスモデルやサービスを考案してみる。
8	ハイブリッドワーク	全組織対象 (経営戦略、IT推進、人事部門)	コロナ禍における新しいワークスタイルとして注目されているハイブリッドワーク（出社と遠隔勤務を組み合わせた柔軟な働き方）は、生産性や効率性、ワークライフバランスなどの向上に貢献すると言われています。同時に勤怠管理やコミュニケーション、セキュリティなどの課題もあげられています。メリットと課題を分析し、最適なハイブリッドワークをITを活用して考え続ける事は、自社の更なる働き方改革に繋がると考えます。
9	物流DX	全組織対象 (物流DXに相対する企業の方々)	物流業界では2024年問題によって大きな変革期を迎え様としています。ドライバーや荷役作業員の人材不足が更に進むことが予想される中、DXの推進や先端技術の活用による省人化について検討・議論してませんか。 自社の業務最適化のヒントになればと考えています。
10	地方創生	全組織対象 (地方創生を考えてみたいの方々)	少子高齢化が進む中、各地方の強みを引き出す形でのDXやローコストオペレーションが求められています。また、地域交流のつながりが薄れており、ITを利用して活性化を促す必要があるとも言われています。今後の地域活性化や効率的な地方事業運営が出来る様に、地方行政や地域活動の一助としてIT活用を考えてませんか（IT先進の東京に在住しているからこそ、出身地（地元）の為にと思えばこそ考えられる事があるのでは）。
11	コミュニケーション	全組織対象	近年、社会にはオンラインでのチャットや会議ツールなどを使用したコミュニケーション手法が普及している。しかし、複数のツールを使い分ける負担や、リアルタイム性による負担、テキスト文によるコミュニケーションは効率的に機能しているのか不透明にも思える。チャットや会議ツールの活用で、企業をはじめとした様々な組織を効率良く機能させるために、必要な要素を見えるようにしてはどうか。
12	子育て	全組織対象	近年、子どもの食をめぐっては栄養素摂取の偏り、朝食の欠食、小児期における肥満の増加、思春期におけるやせの増加など、問題が多様化がしている状況にあると言われており、生涯にわたる健康への影響が懸念されている。 また一方で、親の食事づくりに関する必要な知識や技術を十分有していないとの報告がなされている。 これらの問題に対し情報技術を活用し解決の糸口を見い出せないか。
13	高齢化社会	全組織対象	サービスのDX化が推進されている中で、高齢者におけるDXは進捗しているのだろうか。DXにを妨げる要因があるのだとすれば、使う立場と使ってもらう立場での双方の視点から問題を深堀し、解決策を見いだせないか。
14	ローコード /ノーコード	DX、IT推進部門	昨今、ウォーターフォール型のシステム設計・構築は敬遠されがちであり、現場部門を含めて色々なサービス・システム・インタフェースを迅速に利用・提供することが求められている。 Bigデータの有効活用、AI技術との融合を視野に、【マルチプラットフォーム】的な基盤上での小回りの利くシステム・ツールの構築を実現する。
15	SDGs/ESG	全組織対象	いまや各企業は、SDGsやESGについては無視できず、率先して取り組んでいくべき課題となっています。 各企業がひとつひとつ課題を解決していき、積み重ねていくことで世界全体がよりよい方向に向かっていくと考えます。 研究活動を通して、SDGs・ESGを意識しなおし、具体的な課題解決方法を探る。
16	働き方改革	全組織対象	『働き方改革』の取り組みが開始され5年目に入っています。「働く人たちが、それぞれの事情に合わせて、多様な働き方を選択できる社会」と銘打ち各種法律が施行されていますが、当初の想定通りにはなっていないのではないのでしょうか？ デジタルを利用して何か変革は起こせないか？検証したい。
17	人材育成	全組織対象	『働き方改革』の影響もあるのか？各企業においては、【人材育成】も大きな課題となっている。利便性が高まっていくといった環境において、人はどんどん『受動的』な感覚・行動になっていくと思われ、『能動的』に動ける人材が減っていくのではないのか？という危機感がある。 今一度、原点に立ち返って【人材育成】について、どうあるべきか？などを研究する。